

近ごろ、「キャッシュレス決済」という言葉をよく耳にする。キャッシュレス決済とは、紙幣などの現金を用いずに、決済を行うことである。以前と比べ、クレジットカードや、各種の電子決済サービスに対応する店舗が増え、現金以外で支払いを行う人をよく見かけるようになった。そこで今回は、私たちが暮らす社会における、「お金」について考えてみたい。

現在の私たちが暮らす社会で、「お金」として中心

「信用」としての「お金」

金は、振り込みのほか、口座引き落としにより、公共料金などを支払うこともできる。また、企業間取引でも、預金による決済が広く行われている。このように、預金は「お金」として機能し、しかも通貨量の大半を占めている。

では、その預金について考えてみよう。一般的に、銀行は、集めた預金を元手に貸付をしていると考えられている。しかし、実は、銀行は預金を集めずとも貸付を行える。なぜなら、銀行の貸付は、借り手に現金を直接手渡すのではなく、預金口座に貸付額を記入することで行われるからである。この記入された帳簿上

元の預金残高が減り、支払先の預金残高が増えることになる。

すると、現金はどのように世に現れるのか。現在流通している紙幣は、日本銀行が発行する銀行券である。銀行券は、消費者がATMなどから預金を引き出し、その者の預金残高を減らすことで、世に出ていく。こうした消費者の引き出しに備え、銀行は、日本銀行に有する当座預金（以下、日銀当座預金を引き出し、銀行券を保有しておく。これにより、日本銀行の窓口から銀行券が出ていき、銀行の日銀当座預金残高が減少する。

的役割を果たすのは、銀行預金である。クレジットカードや電子決済サービスは、結局のところ預金を使う仕組みになっている。預

キャッシュレス化

決済の多様性考える



名古屋大学
経済学部准教授
橋本 理博

橋本 理博

の数字が預金となる。つまり、預金は、銀行が貸付を行った結果として生まれるのである。

貸付により発生した預金

は、借り手からみれば返済すべき債務だが、払い戻し請求のできる債権でもある。一方、貸し手である銀行からみれば債権だが、払い戻し請求に応じる必要がある債務でもある。つまり銀行は、自分に対する債務を創り出して、貸しているのである。預金を他の債務の決済に使用すれば、支払

このように、私たちの暮らす社会における「お金」は、貸借関係すなわち「信用」を基盤としている。預金が増えれば、口座間の移動するのであれば、原則として現金は不要である。つまり、キャッシュレス化は、「信用」を「お金」として使う手段の多様性の一つと考えられる。

はしもと・まさひろ 金融論、経済史。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。1981年生まれ。

